

授業科目	道徳教育の理論と実践					実務家教員担当科目	-				
単位	2	履修	選択	開講年次	2	開講時期	前期				
担当教員	杉谷 修一										
授業概要	人間社会にとって普遍的かつ本質的な課題である道徳は、学校現場において重要な教育実践として要請されている。この授業では道徳とは何かという本質的な問いに始まり、現代社会における道徳的課題を知ることから始める。次に学校教育における道徳教育の歴史的経緯と現時点での位置づけを理解する。さらに道徳教育の実践的な指導の在り方を主として授業実践の観点から身につけることを最終的な目標とする。道徳教育についての学習は学生自身が道徳的課題について深く思いをめぐらせることを基盤とし、その上で学習指導案の作成や発問・指示・評価など具体的な方法と結びつけることが求められている。特に「考え、議論する道徳」の実践につながる教材研究や教育方法上の工夫について検討する。										
授業形態	対面授業				授業方法	Google Classroom の活用 ・ 自主学習の支援（レジュメ、資料等の掲示） ・ 学生からの質問等に対する回答・解説の掲示 ・ Google フォームによるアンケートや小テストなど（評価対象 20%：レポート外の提出物）					
学生が達成すべき行動目標											
標準的レベル	(1) 道徳と実践にかかわる基本的課題を理解できる。 (2) 学習指導要領における道徳教育の基本的位置づけを説明できる。 (3) 学習指導案の基本的な構造を理解し、学習指導案作成に活用できる。 (4) 道徳の授業実践にかかわる基本的な知識を習得する。										
理想的レベル	(1) 道徳と実践にかかわる課題を理解できる。 (2) 学習指導要領における道徳教育の位置づけを説明できる。 (3) 学習指導案の構造を理解し、学習指導案作成に効果的に活用することができる。 (4) 道徳の授業実践にかかわる知識を習得する。										
評価方法・評価割合											
評価方法			評価割合（数値）				備考				
試験			0								
小テスト			0								
レポート			80%				学習指導案				
発表（口頭、プレゼンテーション）			0								
レポート外の提出物			20%				Google フォームで指示した課題				
その他			0								
カリキュラムマップ（該当 DP）・ナンバリング											
DP1	○	DP2	○	DP3	○	DP4	-	DP5	○	ナンバリング	EN24114J
学習課題（予習・復習）										1 回の目安時間（時間）	
予習 ・ Google Classroom に掲示する資料（配布スライド資料、参考資料、動画リンク等）を活用する。 復習										4	

・ 予習で使用した資料に加え、授業中に指示した資料を活用し、興味、関心、疑問点を調べる。	
授業計画	
第 1 回	道徳の多面的理解 道徳が時代や社会により多様な姿で現れることを概観し、多面的理解の意義について考察する。
第 2 回	子どもの道徳性の発達 道徳性の発達についての代表的理論を紹介し、理論モデルの特徴及び問題点を考察する。
第 3 回	学習指導要領の変遷と道徳教育 学習指導要領の成立と変遷を概観し、道徳教育の日本の公教育における位置づけを考察する。
第 4 回	現行学習指導要領における道徳教育 学習指導要領における教科化の意味と具体的な取り組み、「考え、議論する道徳」への転換について考察する。
第 5 回	授業としての道徳教育（1）動画で学ぶ授業の実際 文部科学省「道徳教育アーカイブ」の授業動画を参考に、授業ねらいと展開のイメージをつかむ。
第 6 回	授業としての道徳教育（2）学習指導案の構造 学習指導案の構造を理解し、道徳科学習集指導案の特徴を考察する。
第 7 回	授業としての道徳教育（3）教材研究の基礎 主題×学習者×教材という関連の中で教材を捉える意義を理解し、各自で興味のある教材選定を行う。
第 8 回	授業としての道徳教育（4）「考え、議論する道徳」のための教材活用 教材活用がどのように「考え、議論する」というねらいと結びつくかについて、授業動画や学習指導案等の検討を通じて考察する。
第 9 回	授業としての道徳教育（5）授業実践技術の基礎 発問、板書、グループワーク指導など授業展開を具体的に支える技術について考察する。
第 10 回	授業としての道徳教育（6）主題・学習者・教材の関連 これまでの内容を踏まえ、改めて主題×学習者×教材が適切に連動しているかを検討する。
第 11 回	授業としての道徳教育（7）道徳教育における学習評価 道徳教育における学習評価の特徴やねらいについて理解し、適切な評価の観点と方法を考察する。
第 12 回	学習指導案をつくってみよう（1）道徳的価値とテーマの選定 各自の興味関心に基づき、学習指導要領に示された取り扱う内容項目と結びつけたテーマを選定する。
第 13 回	学習指導案をつくってみよう（2）児童生徒を中心とする授業の展開 「考え、議論する道徳」のねらいを実現するために、児童生徒を中心とする授業展開を構想する。
第 14 回	学習指導案をつくってみよう（3）学習指導案の比較と課題の発見 学生相互で学習指導案を比較し、同じ道徳的価値を取り上げても多様な授業が成立することを理解する。また各自の授業の課題を発見する。
第 15 回	授業のまとめ これまでの授業を振り返り、道徳という抽象的価値のあり方を授業という具体的な活動に結びつけることの意義を理解する。
テキスト	文部科学省『小学校学習指導要領解説解説 特別の教科道徳編 平成 29 年告示』 文部科学省『中学校学習指導要領解説解説 特別の教科道徳編 平成 29 年告示』

参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介	やまざきひろし『答えのない道德の問題 どう解く?』2018, ポプラ社 文部科学省「道德教育アーカイブ」https://doutoku.mext.go.jp/ Google Classroom にて掲示する資料を参照のこと。
課題に対するフィードバックの方法	課題・質問等への回答は以下のように行う。 (1) 授業中に全体に説明する。 (2) Google Classroom に掲示する。 (3) メールでの質問は本人への回答を基本とするが、許諾があれば全体で共有する。
学生へのメッセージ・コメント	これまでの学校や家庭でのしつけ、教育経験や公共の場における規範状況などを手がかりに授業へと導入する。日本の教育における道德教育の位置づけを理解する際には、教育法規や学習指導要領の文言をある程度具体的イメージとしてとらえる力が必要となる。また、学習指導案の作成においては、ねらいを教材や方法の形で具体化する発想力が大切となる。 まずは道德の問題を自分の課題としてとらえ直す必要がある。道德のテーマについて考察を深めずに、借り物のテーマで道德の授業を作ってはならない。未熟であっても、自分の経験・思考・教育的ねらいを通して学習指導案を作ること、「考え、議論する道德」を実践する力量を高めて欲しい。最終的な学習成果として、各自が道德科学習指導案を作成する（評価対象 80%）。

